

令和6年度 大田区立新宿小学校 自己評価 報告書

令和7年3月10日

○ 本校の概要

・児童数267名(全12学級)、教職員(校長・副校長各1、主幹教諭2、指導教諭1、主任教諭5、教諭5、臨時任用教諭2名、養護教諭1)事務1、講師3、主事2ほか
 ・目指す児童像:子ども同士が学び合う学校・子どもから学ぶ教員・子どもから学ぶ保護者・みんなが自分の成長に気付ける学校
 ・ICT機器を活用した個別最適な学び・協働的な学びを通して、自ら課題を解決する力の育成に努める。
 ・校内研究テーマ:「自分の思いや考えを伝え合い、考えを深めたり合意形成をしたりすることができる子の育成」に努める。
 ・校内独自の漢字検定や東京ベーンクドリル、算数ステップ学習を活用した「漢字チャレンジ週間」「算数ステップアップ週間」等の取組を通して、基礎・基本の定着を図り、学力の向上に努める。
 ・恵まれた環境を生かし、地域の中の学校として、地域・保護者との協働による児童の維持管理や学校支援地域本部との連携による積極的な地域人材の活用を図る。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄							
								評価人数	コメント						
生予個性測別 る困目力難 標をな1育 成来社 会を創 造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	児童「学校ふり 返りアンケート」にて、「学習の振り返りを行い、自分の良さや課題に気付くことができる」「学校の授業や家庭学習で日常的にタブレット端末を活用している」の質問に、肯定的な回答をした児童の割合80%	4: 80% 以上	児童アンケート「よさや課題に気付く」肯定的回答81.7%、「タブレット活用」肯定的回答89.9%であった。 ・来年度より始まる区独自教科「おわたの未来づくり」について、地域課題を解決する学習を通して、地域にすすんで開き、主体的に課題解決しようとする資質・能力を育成する。低学年から、各教科等を通して、創造的な資質・能力の素地を育成する。 ・児童がタブレット端末を使って活用する能力は、高くなってきた。しかし、リテラシーについては課題が残るため、発達段階に応じた指導計画を再度確認し、系統的に指導していく。 ・各教科等の学習では、振り返りの時間を通して自分の良さや課題を明確にし、自分の学びを調整できる児童を育成していく。 ・話し合い活動を通して、課題解決力や合意形成する力を高め、友達と協働的に学ぶことができるようにする。	A	4	・新宿小には、子どもたちに寄り添い保護者の声、地域の声に耳を傾ける教職員が多い。そのかいあって、保護者も学校の教育方針に協力する姿勢が多く見受けられた一年だった。					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								1	3: 70% 以上	4: 60% 以上		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											1	2: 60% 以上
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												
②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
④児童主体の学びや学習活動の振り返りを通して、自ら学びを調整しようとする児童の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
お世個お界別 たと目をつ 標担な2う が人る材を 際育都 成市し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話を増やす機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	児童「学校ふり 返りアンケート」にて、「自分たちの住んでいる町はよい町である」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、地域の特色を生かした教育活動を積極的にやっている」質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80% 以上	児童アンケート「住んでいる町はよい町である」肯定的回答91.4%、保護者アンケート「地域の特色を生かしている」肯定的回答81.4%であった。 ・ALTの取り組み(授業や英語カフェ)や児童との関わり(休み時間以外で遊ぶなど)がとてよく、低学年の児童も、英語でALTに話しかけている姿が見られる。 ・次年度の児童集会では、季節・行事にちなんだ集会活動に取り組むなど、日本や外国の文化に親しむ活動を取り入れる。 ・生活科「総合的な学習「おわたの未来づくり」を中心に、地域の特色を生かした学習活動を行う。 ・児童集会活動や総合的な学習の時間で、「新宿SDGs」に取り組ませ、児童一人一人が世界が抱える課題について関心をもてるようにする。	A	3	・英語に拘らず、コミュニケーションが大切と思うが、シャイな子が多いかもしれないと思った。 ・近年、外国人の編入生も多くなり、様々な文化も受け入れていく時代になった。一方、子どもたちは、外国人や様々な考えをもつ子もいる中で、学校生活を柔軟に受け入れている。羽田空港のある街「おわた」の未来は、その柔軟な子どもたちが作り、受け入れる心がこの街をさらに活性化させていくのだと思う。					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								1	3: 70% 以上	4: 60% 以上		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											1	1: 60% 未満
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												
②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
④生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童が地域の良さを実感できるような地域の特色を生かした教育活動を積極的に取り入れている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
た一個め人 別のひ目基 と標 礎り3が な個性 とを育 力を成 をを 発揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生き抜く上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	児童「学校ふり 返りアンケート」にて、「休み時間などに体を動かしている」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、児童の体力向上を目指した取り組みを展開している」の質問に、肯定的な回答をした割合80%	4: 80% 以上	児童アンケート「体を動かしている」肯定的回答77%、保護者アンケート「体力向上の取組を展開している」肯定的回答97.2%であった。 ・学活の授業の一環として、栄養士と協力して食育の授業を行う。特活担当が学級活動の年間指導計画を立てる際に、食育担当・栄養士と打ち合わせをして、年間指導計画に食育の授業を入れる。 ・姿勢が悪い児童が目立つ。タブレットを使用する機会が多くなっているからこそ、姿勢の見直しについて共通理解し、全校で指導を徹底していく。また、体育健康教育地区公開講座などで「姿勢」に関する講師を招き、児童だけでなく保護者にも啓発していく。 ・第6学年児童の中学校授業見学や部活動体験、保育園児の小学校見学・交流会で、見直しをもてるような活動を行っている。今後も、保幼小の打ち合わせや小中一貫の集まりなどで、小学校段階での学習の取り組みを伝えていき、接続をスムーズにする。 ・持久走の取組などを通して、児童の体力向上や運動に対する意識の高まりが見られた。次年度も持久走大会を行うとともに、業間運動としての持久走の取組を計画し、全校で実施していく。また、体づくり運動や器械運動、ボール運動などの学習とつなげて、児童が休み時間に自発的に運動に取り組むようにしていく。	A	4	・公園などもボール投げ禁止の所が多く、学校のグラウンドで思いっきりできるといい。 ・子どもたちを、先生達が上手に褒めてあげているかどうかがやや心配である。 ・芝生のある学校という利点を活かし、転ぶことやケガを恐れずに元気に過ごしていると思う。運動会等で見る子どもたちの思い切った走りや表現が、そのことを写し出している。					
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。								2	3: 70% 以上	4: 60% 以上		
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。											2	2: 60% 以上
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。												
			4:「おおむねできた」と全教員が回答した。												
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。															
②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						2	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						2	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	1	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	1				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						1	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															
⑤体育の授業や休み時間などを通して、児童の運動習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2	3: 70% 以上	4: 60% 以上											
3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2				2: 60% 以上										
2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						2	1: 60% 未満								
1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。															

<p>学個別力目標 教4師力を向上させます</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p> <p>④教員は、校内外で研修した内容を共有するOJT研修等を実施し、授業に生かしている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>児童「学校ふり回りアンケート」にて、「授業の内容がよく分かる」、保護者「学校公開時アンケート」にて、「児童にとって、授業の内容がよく分かるものであったか」の質問に、肯定的な回答をした割合90%</p>	<p>4:90%以上</p> <p>3:80%以上</p> <p>2:70%以上</p> <p>1:70%未満</p>	<p>児童アンケート「授業が分かる」肯定的回答93.4%、保護者アンケート「授業の内容がよく分かるものであったか」肯定的回答98.6%であった。</p> <p>・校内研究会は年6回実施。学年間で交換授業等をする学年が増え、教師間の交流が活発化している。互いの授業を見合うことで、OJTも進んでいる。次年度は、各教員が年度当初に研修テーマを決め、学期ごとにテーマ別にグループで振り返る時間を取ったり、研修テーマに合った専門家を招聘し指導を受けるたりすることで、教師の指導力向上を目指す。</p> <p>・高学年は教科担任制(理科・社会・体育など)、中学年は各学期交換授業(1単元)、低学年は3学期に交換授業(1単元)を行う。教師の指導力向上や多面的な児童理解につなげていく。</p> <p>・教員支援員やエデュケーションアシスタントの活用や、ICT活用によるペーパーレス化などで業務削減を図り、児童と向き合う時間や教材研究の時間を確保する。また、教員自身の心のゆとりと時間を生かして、スキルアップを目指す。</p>	<p>A 1</p> <p>B 4</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・新宿小学校には、長く在籍する教職員も多く、安定している。その一方で、新たな取り組みを拒む教職員も見受けられる。校長・副校長が手を合わせ、子どもたちの学びを進み取り組む一方で、教職員間での考え方が乖離しているとも感じとれる。保護者、子どもたちから見れば、先生は先生という大きな存在であるので、教職員一丸となり、方向性を合わせ、良い学校にしていってほしい。</p>
<p>た自個め別の目 学し標 びく5 をい き 支 援 い き ま す と 生 き る</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p> <p>④異学年交流や地域の方々との交流を積極的に行い、児童の豊かな人間性を育む活動の充実を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>児童「学校ふり回りアンケート」にて、「困っている人がいたら、声を掛けられる」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、異学年交流や地域の方々との交流を図る活動を通して、児童の豊かな人間性を育む活動の充実を図っている」の質問に、肯定的な回答をした割合90%</p>	<p>4:90%以上</p> <p>3:80%以上</p> <p>2:70%以上</p> <p>1:70%未満</p>	<p>児童アンケート「困っている人に声を掛けられる」肯定的回答86.4%、保護者アンケート「人間性を育む活動の充実」肯定的回答95.2%であった。</p> <p>・配慮や支援を必要としている児童に対して、全教職員での共通理解が不可欠である。今後も、特別支援教室の教員や心理士などからも情報共有し対応する。また、前年度からの引継ぎを確実にし、切れ目のない指導をする。</p> <p>・異学年交流は、今年度「新卒ラウンド」を復活させた。6年生が意欲的に計画・運営を行い、どの学年の児童も楽しく活動できた。今後は、各学年に応じたねらいを明確にして、児童一人一人が役割意識をもって活動に参画できるようにする。特活部でふれあい班活動の年間計画を見直し、時数を学活で確保し、充実した活動ができるようにする。</p>	<p>A 3</p> <p>B 2</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・異学年交流は、楽しそうですね。思いやりの心がより生まれそうに思う。</p> <p>・近頃の児童は、優しいからおおむねいいと思う。</p> <p>・総合的に見ても心優しい子どもが多いと思う。また、困っている子に声を掛ける習慣は、大人が子どもに声を掛けるほど反映される。朝の挨拶運動がそれを表している。</p>
<p>安柔個 心軟別 なで目 教創標 育造6 環的境 なを学 習く空 間と安 全・</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p> <p>③安全教育・防犯教育を充実させ、自分で考えて行動できる児童の育成を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>児童「学校ふり回りアンケート」にて、「地震や火事があったら、どんな行動をすればいいか分かる」、保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、安全教育や防災教育を積極的に行っている」の質問に、肯定的な回答をした割合80%</p>	<p>4:80%以上</p> <p>3:70%以上</p> <p>2:60%以上</p> <p>1:60%未満</p>	<p>児童アンケート「災害時に適切な行動の仕方が分かる」肯定的回答96.5%、保護者アンケート「安全教育・防災教育を行っている」肯定的回答95.4%であった。</p> <p>・毎月行う避難訓練を様々な想定で行っているため、予告なしの訓練でも児童は自分で判断して正しい行動ができるようになった。安全指導や安全点検も定期的に行い、大きなけがもなかった。今後も、日頃より安全教育プログラムにある一言事例を活用し、確実に指導していく。</p> <p>・学校の芝の校庭の維持管理に、放課後の時間を利用して、地域の方々にも参加していただいた。「おたの未来づくり」の学習とも関連付け、引き続き芝刈りを行っていき、愛校心を育成する。</p>	<p>A 3</p> <p>B 2</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・教育委員会をはじめ、地域の声を行政がすぐに動き実行してくれることがたくさんある。何でもかんでもやってもらうのではなく、声をあげる時に、あげる側もどのように、なぜ、どうしてほしいのかを上手に伝えることで、子どもたちの安全につながる環境が生まれると思う。</p>
<p>学地学個 校域校別 をコ・目 つミ家 くコ庭 リニ・ まテ地 すイ域 の核 連と携 し、協 働による</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。</p> <p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p> <p>④ホームページや学校・学年便り・保護者会などを通して、保護者や地域に教育活動の様子を伝えている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>保護者「学校評価アンケート」にて、「学校は、日常の教育活動などについて、ホームページや学校・学年便り・保護者会などを通して、保護者や地域に教育活動の様子を伝えている」の質問に、肯定的な回答をした割合90%</p>	<p>4:90%以上</p> <p>3:80%以上</p> <p>2:70%以上</p> <p>1:70%未満</p>	<p>保護者アンケート「教育活動の様子を伝えている」肯定的回答96.2%であった。</p> <p>・総合的な取組評価は低いが、保護者や地域の方々に学校に関心をもってもらえるように、学校だよりや毎日更新しているホームページで、学校での授業風景や児童の様子をお知らせできた。また、まなびポケットでは、各学級担任が学級の取組も紹介してきた。今後は、学級差がないように配信していく。</p> <p>・来年度からの「学校運営協議会」に向けて、準備を進めてきた。今後も、事前に行事等をお知らせすることで、授業などの協力を仰ぐ。また、地域には、児童の登下校中の見守りや放課後の児童の様子との意見交流なども行い、安全面・健全育成面での協力を仰ぐ。</p>	<p>A 4</p> <p>B 1</p> <p>C</p> <p>D</p> <p>・地域の人々に学校に関心をもってもらったり、様子を知ってもらうことは、行く機会の多い私たちにもできることで、まわりの人に見学できるときなど伝えようと思った。また、登校・下校時の子どもたちの見守りについて、近所だけでなくもっと広げようと思った。</p> <p>・芝刈りでの子どもたちとのふれあい、展覧会での感動(子どもたちの笑顔)が目についた。新宿小の子どもが健やかに学び、成長しているのを強く感じる事ができ、嬉しく思う。これらは、教職員の皆様の愛情あふれる子どもたちとの接し方の表れだと思ふ。</p> <p>・地域との交流の機会を多く作ることがCSの向上につながると思う。</p> <p>・芝刈りなどをさらに活用して、83(ハチサン)運動など地域、保護者、学校の連携を促進させていきたいと思う。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す